



2026 SUPER GT RACE REPORT

FUJI SPEEDWAY

Rd. 2

5.3 [sun] - 4 [mon]

[place] 富士スピードウェイ (静岡県小山町)

[weather] **sun** 晴れ **mon** 晴れ

[spectators] 83,600人 (**sun** 33,300人 **mon** 50,300人)

Rd.1	OKAYAMA International Circuit	APR 11 - 12
Rd.2	FUJI SPEEDWAY	MAY 3 - 4
Rd.3	Sepang International Circuit	JUN 20 - 21 *開催延期
Rd.4	FUJI SPEEDWAY	AUG 1 - 2
Rd.5	SUZUKA CIRCUIT	AUG 22 - 23
Rd.6	Sportsland SUGO	SEP 19 - 20
Rd.7	AUTOPOLIS	OCT 17 - 18
Rd.8	MOBILITY RESORT MOTEGI	NOV 7 - 8

TOM'S

予選13番手から好ペースで追いつけるも、
電気系トラブルが発生。
2戦連続で悔しいリタイアを喫する。



2026 AUTOBACS SUPER GT Round2「FUJI GT 3Hours RACE GW SPECIAL」が、5月3日・4日に富士スピードウェイで行われた。#37 Deloitte TOM'S GR Supra(笹原右京/ジュリアーノ・アレジ)は、予選では13番手に終わったが、決勝ではアレジが序盤からライバルを次々と追いついて上位に迫る走りを披露。笹原に交代してからは表彰台も射程圏に捉えていたが、電気系トラブルに見舞われて47周目にストップ。悔しい2戦連続のリタイアとなった。



37		RESULTS	
TGR TEAM Deloitte TOM'S		Round 2	
 Deloitte 笹原 右京 UKYO SASAHARA	 Deloitte ジュリアーノ・アレジ GIULIANO ALESI	QUALIFYING 1	ALESI P13/1'27.698
		QUALIFYING 2	-
		RACE / Fastest Lap	SASAHARA 1'30.927 ALESI 1'30.204
		予選 13 位	決勝 DNF
		Driver Standings	-
		Team Standings	14位

QUALIFYING

天候:曇り | 気温:21°C | 路面温度:27°C

今年もゴールデンウィーク期間中の開催となった富士スピードウェイでの Round2 には、予選日から多くのファンがサーキットに訪れて盛況となった。午前の公式練習では12番手タイムに終わったが、決勝を見据えたロングランの走行においては好ペースを刻んでおり、ドライバーたちも手応えを掴んでいた。

午後の公式予選ではアレジがQ1を担当し、トップ10圏内が進出できるQ2を目指した。しかし、午前のセッションと比べて風が強くなったほか、路面温度も約7°C低くなるなどコンディションも変化。公式練習で発揮したパフォーマンスを十分に引き出すことができず、1分27秒698で13番手となった。悔しさが残る結果にはなったが、マシンの仕上がりもよく、3時間で争われる決勝レースで逆転を目指し、一致団結していた。



RACE

天候:晴れ | 気温:24°C | 路面温度:43°C

予選日の夜は豪雨に見舞われた富士スピードウェイだったが、朝から天候が回復したこともあり、決勝レースはドライコンディションで始まった。今回は3時間レースのため途中で2度のピットストップが必要となる。13番グリッドの37号車はアレジがスタートを担当して、中盤と終盤の2スティントで笹原が乗車する戦略で上位を目指した。

アレジは序盤から好ペースで順位を上げていき、15周目には早くも7番手に浮上。その後さらに1台を抜いて6番手に上がると、レース開始から1時間が経過した43周目にピットインして笹原に交代した。ピット作業も迅速に済ませ、コースに復帰してからのペースも良好だった。表彰台争いもできそうな雰囲気があったが、47周目に電気系トラブルに見舞われた。笹原はなんとか安全な場所への退避を試みたが、動力が完全になくなり、メインストレートに入ったところで停車。2戦連続でリタイアを喫した。



Driver
笹原 右京

途中で電気系のトラブルによりストップしました。なんとかリスタートを試みましたが、何もできなかったです。第1スティントのジュリアーノの走りはすごく良かったですし、僕に交代してからもすごくペースが良くて、表彰台圏内を争うライバルに追いつき始めている状態でした。チームのみんなが一生懸命やってくれただけに本当に残念です。次はポール・トゥ・ウィンを獲ることを考えていきたいです。

Driver
ジュリアーノ・アレジ

とても残念な結果です。チームのみんなが今回のためにしっかりと準備をしてくれたので、ペースもすごく良かったし、クルマのポテンシャルとしては表彰台を狙える状態だったと思います。それを実現させたかったのですが、2回連続でノーポイントは痛い。トラブルに関してはしっかりと原因を究明しないとイケませんが、チームのみんなは出来ることを精一杯やってくれていました。次のレースでは、ポール・トゥ・ウィンだけを狙っていきます。

Team Director
ミハエル・クム

予選で上位に食い込めなかったのは残念でしたが、決勝でのジュリアーノのペースは本当に良かったです。その後の右京も速さをみせていたので、36号車に追いつけそうなくらいの勢いはあったと思います。トラブルの詳しい原因については、まだ調べているところですが、とにかく残念です。ただ、富士で速かったというのは次戦に向けては間違いなくポジティブなこと。今年、37号車は完走できていないので、次戦はポール・トゥ・ウィンを目指して頑張ります。

Team Principal
館 信秀

今回は36号車が優勝を飾って嬉しいのですが、それにも増して37号車が結果を残せなかったことが悔しいです。前回は苦しかったです、それを乗り越えて今回は非常に良いペースで走っていました。序盤のジュリアーノも良いパフォーマンスを見せてくれていて、笹原のスティントも楽しみにしていました。もしトラブルなく最後まで走れていれば表彰台も夢ではなかったという走りでした。次戦では、この悔しさを晴らしたいなと思います。

Deloitte.

ZENT

